



DT-870

Patch Program

対応内容説明 / インストールマニュアル

Version.007a

CASIO

<目次>

1	はじめに.....	1
2	対応内容.....	2
3	インストールについて	12
3-1	カードからのインストール.....	12
3-2	FLASHDISKからのインストール	12
3-3	親機からのインストール.....	13
3-4	既にSP2 導入している場合のインストール	13
3-5	インストールの確認.....	13
4	インストール時の注意	14

1 はじめに

このパッチファイルは、DT-870 の機能強化をしたものです。

提供ファイル

- **PatchDT870.007.CAB** …… M50/52/52SB 用パッチファイルです。
- **PatchDT870L.007.CAB** …… M51/51S/51SB 用パッチファイルです。
- **Setup.exe** …… インストールを実行するモジュールです。
- **flce_PatchDT870.bat** …… 本体間でパッチを転送する場合の親機用のパッチファイルです。

<注意！>

DT-870 は電池の消耗により本体 RAM のデータが初期化されます。

本 Patch Program は、RAM にインストールされるため、初期化によって削除されますので、インストール後、バックアップを取ることをお勧めいたします。

“スタート” → “プログラム” → “ユーティリティ” → “バックアップツール”
にてバックアップを実行できます。

2 対応内容

007a のリリースにあたり、下記内容を致しました。

<不具合対応>

【概要】

旧 **Setup.exe** を使用してインストールしたマシンに対して、**Patch007** の **Setup.exe** を使用してインストールすると、エラー表示が出てインストールに失敗する。

【詳細】

Patch007 の **Setup.exe** は **ServicePack** をインストールする際に、現在インストールされている **ServicePack** のファイル名と **TimeSTAMP** 情報を確認し、同一ファイル名がないか **TimeSTAMP** が異なる場合、**ServicePack** の **CAB** を実行(インストール)後、**TimeSTAMP** を格納するようにしています。

インストールマシンが、旧 **Setup.exe** で既にインストールされている場合は、**TimeSTAMP** 情報が格納されていないため、**Patch007** の **Setup.exe** でインストールすると、無条件で **ServicePack** の **CAB** を実行するため、その後の **CAB** 内の **Version** チェック処理が動作し、「既に **SP** が存在する」エラーが発生していました。

【対策】

Setup.exe で行っている **ServicePack** の **TimeSTAMP** 確認処理を、**Version** 確認に修正します。
(**Version** 情報は新旧 **Setup.exe** どちらを使用した場合でも格納されているため)

以下は、パッチ 007 で対応された対応/修正内容の一覧です。

※パッチ 007 の内容は、パッチ 004 の内容を含んでおります。

No.	M51	M50,M52	分類	対応/修正内容	区分	備考
1	○	○	電源	本体をクレードルへ装着し、クレードルの電源 OFF/ON でバッテリーへの充電が停止される問題を修正しました。	—	
2	○	○	電源	ソフトリセット実行時、電源 ON されないことがある問題を修正しました。	—	
3	○	○	電源	時計が早く進むことがある問題を修正しました。	—	
4	○	○	電源	CPU の暴走による ROM 破壊により、OS が起動してこなくなるがある問題を修正しました。	—	
5	○	○	電源	リセット実行時、フルリセットがおこる又は電源 ON されないことがある問題を修正しました。	—	
6	—	○	2D	読取るシンボル状態や周囲の環境により読取り時間が遅いことがある問題を修正しました。	—	
7	—	○		TDWaitForDecode 関数で、バイナリデータの QR コードを読み込むと、' 00' データで途切れて正しく読めない問題を修正しました。	—	
8	—	○		一回のキャプチャで複数シンボルを出来るように改善しました。	—	
9	—	○		ISBN コードのチェックサム自動チェック機能追加しました。	—	
10	—	○		2 重読み取りチェックの不具合対応を行いました。	—	
11	○	○	IrDA	赤外線による ActiveSync 接続で繋がらない現象を改善しました。	—	
12	○	○	表示	工場で設定された LCD 設定値 (LED 調光値、COMDC 値) が反映されていない問題を修正しました。	—	
13	○	○		[Fn]+[1] のバックライトオフ後、放置しておく自動的にバックライトがオンになる問題を修正しました。	—	
14	○	○		[Fn]+[1] のバックライトオフ後、電源 OFF/ON でバックライト状態が変化する問題を修正しました。	—	
15	○	○		<u>画像印刷時のBitBlit表示不具合を修正しました。</u>	修	
16	○	○	FLCE	FLCE で、/8 (Win98) オプション指定時、スクリプト動作しない問題を修正しました。	—	
17	○	○	IE	全画面表示を対応しました。	—	
18	○	○	タッチパネル	手書きで線を引くと、ノイズにより線が乱れることがある問題を修正しました。	—	
19	○	—	1D	レーザスキャナにおいて Addon 付き JAN コードの読取りを改善しました。	—	
20	○	○	キー	<u>入力モードの現状態を取得できないことがある問題を修正しました。</u>	修	○
21	○	○		<u>仮名漢字変換時に文節伸張・短縮が行えるよう修正しました。</u>	追	
22	○	○		<u>キーモード遷移抑止設定・取得できるように修正しました。</u>	追	○
23	○	○		<u>トリガーキーの無効・有効設定・取得できるように修正しました。</u>	追	○
24	○	○	CommCtrl1	<u>日時指定コントロールで表示が異常になる問題を修正しました。</u>	修	
25	○	—	1D	<u>Code39 バーコードの読取改善をしました。</u>	追	
26	○	—		<u>PATCH004 を当てると致命的なアプリケーションエラーになる問題を修正しました。</u>	修	
27	○	—		<u>APIによるスキャンの開始・停止を行う機能を追加しました。</u>	追	○
28	○	—		<u>サフィックスに指定できるコードにNULLを追加しました。</u>	追	○
29	○	—		<u>読取結果をキーボードイベントとして出力する機能を追加しました。</u>	追	○
30	○	—	1D	<u>読取完了時に、メッセージ・イベントを発行してタイミングをアプリケーションに通知する機能を追加しました。</u>	追	○
31	○	—		<u>トリガキーを設定する機能を追加しました。</u>	追	○
32	○	—		<u>UPC-A Addon/UPC-A/UPC-E Addon/UPC-Eのナンバシステムキャラクタ出力の有無を設定する機能を追加しました。</u>	追	○
33	○	—		<u>設定ファイルの記述の変更をしました。</u>	修	
34	—	○	2D	<u>半角文字読取不具合を修正しました。</u> T	修	

区分 : 「－」 → Patch004 対応済み / 「追」 → 機能追加 / 「修」 → 不具合修正

備考 : ○がついているものは、機能実現のために新しいライブラリ (SDK Ver. 3.01) が必要

以下に Patch ファイルの対応内容を記述します。

(Patch004 での対応分は記載していません)

【No.15】

【概要】

画像印刷時の **BitBlt** 表示不具合

【詳細】

表示ドライバの不具合によりアプリケーションからプリンタ用メモリ空間に対して描画がおこなえません。

【対策】

上記切り替えの修正及びプリンタ等の外部機器用に内部メモリの確保

【No.20】

【概要】

入力モードの現状態を取得できないことがある

【詳細】

システムライブラリで設定した場合には現在の入力モードが取得できますが、ユーザが入力切替キーや **F4** で入力モード切替した場合、取得できないことがあります。

【対策】

P モードを追加しました。

F、L モードの場合は本来の入力モード (**1**、**あ**、**ア**、**A**、**a**、**P**) を返すように修正しました。

【No.21】

【概要】

仮名漢字変換時に文節伸張・短縮の機能追加

【詳細】

カーソルキーで文節切り替えできるが伸張と短縮ができません。

このため **SIP** を立ち上げて、**SHIFT+→**で伸張、**SHIFT+←**で短縮させる必要があります。

【対策】

以下の仕様で機能追加しました。

IME 入力中は→キー : **SHIFT+→**のキーコード発行

←キー : **SHIFT+←**のキーコード発行

このため、動作は以下のようになります。

IME 漢字変換中は→キー : 文節伸張

←キー : 文節短縮

IME 文字入力中は→キー : カーソル右移動

←キー : カーソル左移動

【No.22】

【概要】

キーモード遷移抑止設定・取得

【詳細】

入力切替時、入力切替キーや **F4** で入力モードを切り替えていくと自分が使用したい目的の入力モードにたどり着くまで何回もキーを押す必要があります。このため以下のような仕様にします。

1→あ→ア→A→a→P の順に切り替わるのを **A**、**a** を無効にすると、1→あ→ア→P の順に切り替わる。

ただし、**CLBSetInputChangeButtons** を使用すれば、無効にされているキーモードでも切り替えることができます。

【対策】

SysLib に以下の関数を追加。

CLBSetKeyModeEnableBitState : 入力切替時のキーモード遷移の有効／無効を設定します。

CLBGetKeyModeEnableBitState : 入力切替時のキーモード遷移の有効／無効を取得します。

【No.23】

【概要】

トリガーキーの無効・有効設定・取得

【詳細】

トリガキーが押されやすい位置にあるため、誤って押されていた場合や、ソフトケースなどに当たってしまう場合に他のキー入力ができないため、アプリケーションから有効・無効設定と取得ができるようにします。

【対策】

SysLib に以下の関数を追加。

CLBSetTriggerKeyInterruptState : トリガキー入力割り込みの有効／無効を設定します。

CLBGetTriggerKeyInterruptState : トリガキー入力割り込みの有効／無効を取得します。

【No.24】

【概要】

日時指定コントロールで表示異常

【詳細】

カレンダーコントロールが正しく表示されません。

【対策】

表示の不具合を修正しました。

【No.25】

【概要】

Code39 バーコードの読取改善対応

【詳細】

印字品質の悪い Code39 の読み込みが出来るように改善しました。

【原因】

バーコードの品質が悪く（白が細り気味）読取品質の改善が必要である。

【対策】

- ①標準の解析処理で NG の場合、新しい閾値で判定する仕組みに変更する。
- ②キャラクタ全体幅（白バー 4 本、黒バー 5 本）から太細の閾値を算出し判定していたのを、白バーと黒バーとに分けてそれぞれの閾値を算出しそれぞれの閾値で判定する。
- ③上記閾値で判定 NG の場合、白バー 3 本中の比率ばらつき／黒バー 4 本中の比率ばらつきを考慮しての閾値にて判定をリトライする。

【No.26】

【概要】

PATCH004 を当てると致命的なアプリケーションエラー

【詳細】

スキャナを使用する 2 つのアプリケーションを交互に起動するような状態で、電源のオフ・オンをすると、致命的なアプリケーションエラーが発生します。

【原因】

DecodeDrv. dll 内の Decode_Init で RegisterWindow をしているが、Deocode_Deinit で UnregisterWindow を行っていないため、CreateWindow に失敗する場合がある。
これにより上記エラーが発生しているものとする。

【対策】

ドライバから呼び出される DecodeDrv. dll の初期化処理(Decode_init)を修正。

【No.27】

【概要】

API によるスキヤンの開始・停止を行う機能を追加

【詳細】

機種間の仕様を統一するために、API によるスキヤンの開始・停止を行う機能を追加します。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバの変更と、レーザスキャナライブラリに以下の関数を追加しました。

- ・ OBRStartScanning
- ・ OBRStopScanning

【注】

追加関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.28】

【概要】

サフィックスに指定できるコードに NULL を追加

【詳細】

機種間の仕様を統一するために、サフィックスに指定できるコードに NULL を追加します。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバ・設定ツールの変更と、レーザスキャナライブラリの以下の関数を変更しました。

- ・ OBRSetSuffixChar
- ・ OBRGetSuffixChar

【注】

修正した関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.29】

【概要】

読取結果をキーボードイベントとして出力する機能を追加

【詳細】

機種間の仕様を統一するために、読取結果をキーボードイベントとして出力する機能を追加します。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバ・設定ツール・読取ツールの変更と、レーザスキャナライブラリの以下の関数を変更しました。

- ・ OBRGetBuffType
- ・ OBRChangeBuffMode

【注】

修正した関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.30】

【概要】

読取完了時に、メッセージ・イベントを発行してタイミングをアプリケーションに通知する機能を追加

【詳細】

機種間の仕様を統一するために、読取完了時に、メッセージ・イベントを発行してタイミングをアプリケーション通知する機能を追加します。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバの変更と、レーザスキャナライブラリに以下の関数を追加しました。

- ・ OBRGetScanningNotification
- ・ OBRSetScanningNotification
- ・ OBRGetLastEventStatus

【注】

追加関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.31】

【概要】

トリガキーを設定する機能を追加

【詳細】

トリガキーを設定する機能を追加します。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバ・設定ツールの変更と、レーザスキャナライブラリに以下の関数を追加しました。

- ・ OBRSetScanningKey
- ・ OBRGetScanningKey

【注】

追加関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.32】

【概要】

UPC-A Addon/UPC-A/UPC-E Addon/UPC-E のナンバシステムキャラクタ出力の有無を設定する機能を追加

【詳細】

機種間の仕様を統一するために、UPC-A Addon/UPC-A/UPC-E Addon/UPC-E のナンバシステムキャラクタ出力の有無を設定する機能を追加しました。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバ・設定ツールの変更と、レーザスキャナライブラリに以下の関数を追加しました。

- ・ OBRSetWPCAddonOptionEx
- ・ OBRSetWPCOptionEx
- ・ OBRSetUPCEAddonOptionEx
- ・ OBRSetUPCEOptionEx

【注】

追加関数の仕様は、「追加関数解説書」をご参照下さい。

【No.33】

【概要】

設定ファイルの記述の変更

【詳細】

機能追加に伴い、スキャナドライバの設定項目が増えるため、それに伴って設定ファイルの記述も変更しました。

【対策】

レーザスキャナ制御ドライバ・設定ツールを修正し、設定ファイル内の下記の書式を変更しました。

- ①読取完了通知モード、トリガキー設定の項目追加
- ②UPC-E のナンバシステムキャラクタ設定の追加に伴うスペルの変更
- ③ファイルの先頭に機種名、ドライバ名(アプリ名)、バージョン情報を記述

【注】

設定ファイルの書式は、パッチ前との互換性を考慮しているため、パッチ後に保存したファイルをパッチ前の DT-870 で読み込ませることも可能です。

【No.34】

【概要】

半角文字読取不具合

【詳細】

拡張 ASCII 文字(半角カタカナなど 0x80~0xFF)を含むシンボルを読むと文字化けが発生します。

【原因】

読み取ったシンボルのデータをデコーダ内部で Unicode に変換する処理が、拡張 ASCII コードに対応していませんでした。

TDWaitForDecode 関数の内部でコールしている oemWaitForDecode 関数の内部仕様が ver1.16 より変更されたことが原因です。

【対策】

TDWaitForDecode 関数の内部で oemWaitForDecode 関数(バイナリデータ読み取り)をコールし、その結果を MultiByteToWideChar 関数(Windows API)にて Unicode へ変換するようにしました。

3 インストールについて

CAB ファイルは、インストール後に消去されます。消去しないようにするには、属性を読み取り専用を設定してからインストールして下さい。

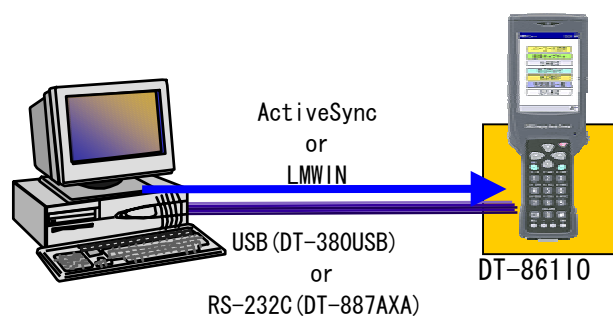
下記に各種のインストール方法を示しますので、お客様の環境に適したインストール方法を選択して下さい。

3-1. カードからのインストール

- (1) ストレージカードにパッチプログラム (PatchDT870. 007. CAB/PatchDT870L. 007. CAB) をコピーします
- (2) 本体にストレージカードを挿入します
- (3) パッチプログラムが入っているフォルダ (「メモリカード」というフォルダ) を開きます
- (4) パッチプログラムをダブルタップし、表示されたダイアログボックスの OK ボタンを押下するとインストールが開始されます
- (5) インストール終了後に自動的にリセットします
- (6) 終了

3-2. FlashDisk からのインストール

PC と DT-870 を IO BOX で接続します。(PC 側の通信ソフトは ActiveSync もしくは LMWIN を使用します。LMWIN に対しては、DT-870 側は“スタート”→“プログラム”→“通信”→“FLCE”を使用します。)ActiveSync、LMWIN の詳しい操作方法は、ソフト機能解説書をご参照ください。



LMWIN もしくは ActiveSync を用いて DT-870 の以下のフォルダに Setup.exe と PatchDT870. 007. CAB/PatchDT870L. 007. CAB をコピーします。

[ダウンロード先：¥¥FlashDisk¥Ce¥Arm]※

コピー完了後、本体裏のリセットボタンを押し、リセットすると起動後、自動的にインストールが行われます。

3-3. 親機からのインストール

- (1) 初めに、3-1 もしくは 3-2 の手順に従って親機を作成します
ただし、パッチプログラムと自動インストールツールの他に” flce_PatchDT870. bat” をコピーします。
- (1) 子機側のスタートメニューから「プログラム→通信→FLCE」を選択して FLCE を実行します
- (2) 親機の flce_PatchDT870. bat を実行します
- (3) 親機から子機へファイルが転送されます
- (4) 子機をリセットします
- (5) 自動インストーラが起動し、CAB ファイル展開後に自動的にリセットします
- (6) 終了

<注意！>

本体間コピーを行うと受信側は送信側と同じ設定になります。個別の設定がされている場合はご注意ください。

本体間コピー終了後、¥FlashDisk¥Ce¥ARM¥PatchDT870.007.CAB は「読取専用ファイル」に設定されているか確認してください。「読取専用ファイル」にいておかないと CAB ファイルの特性で一度インストールすると消えてしまいます。

3-4. 既に SP2 導入している場合のインストール

- (1) 既に SP2 導入済みの方は、SP2 と同じ¥CE¥ARM フォルダに、ファイルをコピーし、本体をリセットしてください。
- (2) 自動インストーラが起動し、CAB ファイル展開後、自動的にリセットします。
- (3) 終了

3-5. インストールの確認

パッチファイルがインストールされたかどうかは、

” スタートメニュー” →” 設定” →” コントロールパネル” →” アプリケーションの削除” で確認できます。

ここに “CASIO DT870 Patch 007” という表示があれば、新パッチファイルが正しくインストールされました。

インストールが完了したら、バックアップを取るようにして下さい。

4 インストール時の注意

2. インストール時の注意

■ 既存の問題点对応について

本パッチプログラム (Version5.00) は、ServicePack2.02/2.03 以降に発生した問題点にのみ対応しております。したがって、既存の問題手に対応するため、下表に従って必要なパッチプログラムを合わせてインストールしてください。

機種名	パッチプログラム		
	ServicePack2.02/2.03	Patch Version004	Patch Version007
DT-870M50/52	○	—	○
DT-870M51/51S	—(*)	—	○

○：インストールが必要、—：インストール不要

* 本体システム ROM で ServicePack2.**の修正を取り込んでいます。

ServicePack を既に導入済みで、復旧ツールを使用している場合

本パッチは、既に導入されている ServicePack のファイルを上書きしています。このためバックアップファイルを更新する必要がありますので、インストール後は、バックアップツール（スタート→プログラム→ユーティリティ→バックアップツール）を実行し、バックアップファイルを更新してください。

ServicePack2.02 と 2.03 について

2.02 と 2.03 に内容の違いはありませんが、2.02 は本体 (2003 年 8 月以降発売の製品) にプレインストールされているもので、2.03 は、2.02 がインストールされていないマシンに入れるためのものです。

DT-870

**Patch Program 対応内容説明／インストールマ
ニュアル**

－ 発行 －

カシオ計算機株式会社

システムソリューション営業統轄部

2005/8/8